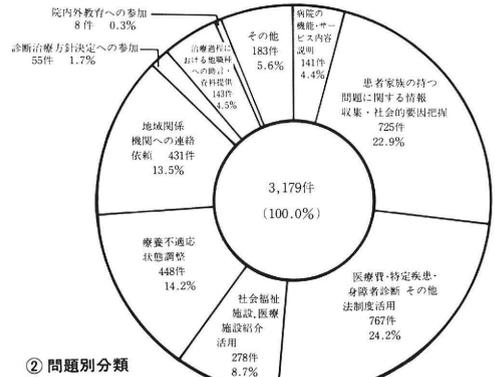
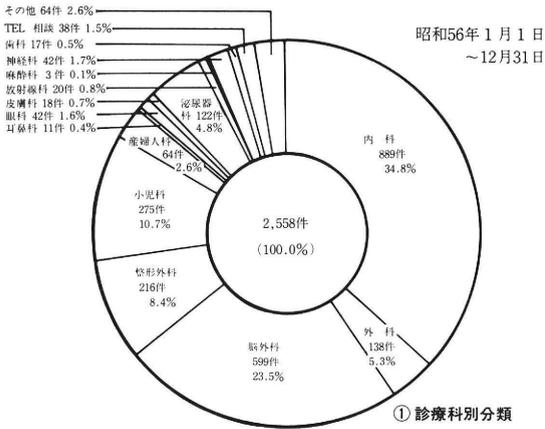


医療相談室年間報告

足利量子, 大槻文博



援助内容

診療科	患者	問題	ソーシャルケースワーク援助・結果
内科	皮膚筋炎と癌性腹膜炎末期の女性 ○入院 56.7.14 依頼 57.1.18	○患者は母子家庭、一人娘は高校受験を控えている。 ○診断名を告げるのに、社会調査をし、Keypersonをさがしてほしい。	○Supportive interviewを通し、母子共通のKeypersonをさがし、主治医に報告し、来院してもらいターミナルケアに際し親類の協力が得られた。 ○娘は親類の協力で高校受験、合格す。 ○S 57. 4. 9 死亡退院
外科	ビルガール病により左下肢切断の34才の男性 ○入院 56.8.25 依頼 56.8.25	○左下肢切断、職業上の問題と家族関係が複雑で患者は気力をなくしている。 ○妻が看護するに際し子供が病室より登校している。	○患者と妻との共同面接実施、経済的側面は生活保護申請。家族関係(患者の父親)については干渉しないように患者、妻、子供の当面する問題の解決にあたるよう側面より援助。 ○子供は家より登校するよう(病室でのデメリット説明)援助 ○S 56.12.25 自宅退院
整形外科	左大腿脛部骨折の老令単身者(77才, 女) ○入院 56.4.14 依頼 56.4.15	○一人暮らしの老人 ○二階の間借りは無理、退院先さがし。	○福祉事務所ケース・ワーカー、民生委員の協力を得て、環境調整。 ○Supportive interviewにより、不安拒否感情への対応援助。 ○S 56. 9.12 自宅退院、まもなく市営老人アパートへ転居

診療科	患者	問題	ソーシャルケースワーク援助・結果
小児科	ネフローゼによる長期入院の女子中学生 ○入院 54.8.14 依頼 56.1.13	○長期欠席による情緒面の不安定(学業面の遅れ, 友人関係など)	○スモールエンジェル(学習援助のボランティア学生)による学習援助開始。 ○医師, Ns 学生によるプバティ研究会開催, 対応の検討を学習する。 ○S 56. 5.20 公立刈田病院養護学校に転校す。
脳外科	脳内出血の45才の男性の社会復帰について ○入院 55.3.13 依頼 56.1. 7	○老母と二人暮らし, 自宅退院不可能 ○家族の回復に対する期待が高い。	○障害の受容について家族に面接し理解するよう医師と協力で援助し, 身障手帳その他社会的条件を整え, 施設入所。 ○S 56. 6. 1 拓杏園入所
産婦人科	身体障害者手帳1級, 車椅子生活の高令妊婦 ○入院 56.8.24 依頼 56.5.22	○出産費用がない。 ○家族関係に問題がある。	○福祉事務所ワーカーの協力で出産費援助 ○産婦人科スタッフの協力で男児出生 ○婚姻関係に関し社会資源紹介 ○S 56. 9.26 母子とも自宅退院
泌尿器科	人工透析中の中年女性 ○入院 56.5.18 依頼 56.5.18	○同棲中の男性と常にトラブルを起こす。 ○病識がなく, 医師, Ns の指示をまもらない。	○トラブルの聴き役になり, 時には指示的 interview を実施し行動修整を援助す。 ○福祉事務所の協力を得て, 生活面のたてなおしを援助する。 ○S 56. 6.16 現在外来透析
神経科	53才の女性 ○外来 56.9.22 依頼 56.9.22	○神経科の対象患者ではない環境要因に問題がある。	○家族と同時にあるいは家族各自と面接し, 家族行動の相互許容点確認を援助し具体的目標設定調整を援助す。

以上, 相談室の一年間の取扱い件数と, 診療各科の援助内容の概略である。業務は各科にわたり援助内容はその一部を紹介したもので, 最近の傾向として, スタッフからの連絡依頼が早期になっ

た点は, 理解のふかまった傾向と分析され, 今後業務の充実につとめる所存である。

(昭和57年9月24日 受理)